

美容室シュール **ちょこっと地元話** ZIMOTO-BANASHI その4 90年代を疾走する**電動車椅子**「**バナナ号**」は新しい!?

美容室シュールから歩いて15秒、敷地内にある「こっぱ舎」は、スロープやバスチェア、車椅子や座位保持装置などを扱う福祉機器の会社（シュールも部門）。JAWS（一般社団法人日本車椅子シーティング協会）の会員でもある。

2018年12月28日に公開された『こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話』（松竹）に出てくる車椅子はJAWSの会員「車いす工房 輪」が映画のために改造したもの。通称「バナナ号」だ。大泉洋さん演じる主人公は、難病を抱えながら自立生活を貫いた人物。映画は、渡辺一史氏著『こんな夜更けにバナナかよ 筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち』（2003年北海道新聞社、18年文春文庫）を原作とする。

現在、JAWS会員の車椅子業者は、お客様（車椅子ユーザー）の身体に合わせた車椅子を提供している。オーダーメイドもあるが、座面や背もたれなどを調整できる車椅子が開発されているのだ。しかし、映画の舞台設定とした1994年当時はそうとうに違う。「製造時代背景を再現するため、今回のバナナ号は“身体を合わせる”電動車いすを製作しました」と工房輪の浅見さんは書いている。「目指したのは子供から年配の方までに届くエンタテインメント」がこの映画だという（前田哲監督）。



△工房輪が作った「バナナ号」。写真などを参考に、鹿野氏が使っていた車椅子の再現を試みた。

こっぱ舎のお客様（車椅子ユーザー）は、特別支援学校の倉庫に眠っていた車椅子を探し出したのかと思ったという見事な仕上がります。



△現代の車椅子（こっぱ舎のデモ機）と映画のパンフレット。「鹿野靖明 本人年表」、コラム「90年代と現在の介助体制の違い」など、パンフレットの内容は充実している。

車椅子の足台やヘッドレスト、肘掛けなども調整が可能です。

バナナ号の写真は「車いす工房 輪」ホームページより転載
<http://koborin.com/>